

令和7年1月



まほろば通信

済生会まほろば訪問看護ステーション 第04号

回復期リハ病棟・地域包括ケア病棟の違い

わが国における高齢者の医療・福祉は、2000年(平成12年)介護保険制度発足を皮切りに著しく発展してきました。同時に病院では疾病発症後の期間を「急性期」「回復期」「慢性期」に分類し、機能分化がすすめられました。その中の「回復期」にあたる回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟はともに済生会日田病院にあります。両者の違いがわかりにくいという声があり、整理してみようと思います。

① 回復期リハビリテーション病棟

「リハビリテーション重視の回復期」

従来の訓練室中心のリハビリではなく、病棟を中心に据えた多職種でのリハビリに取り組む目的で、2000年4月の診療報酬改訂で「回復期リハビリテーション入院料」として制度化された病棟です。急性期病院での治療が落ち着いたものの、すぐにご自宅へ退院するには不安がある方を対象に、引き続き治療とリハビリテーションを必要とする方を受け入れ、早期の在宅復帰を目指します。

② 地域包括ケア病棟

「地域で長く安心して暮らすことに特化した地域包括ケア」

高齢者が増える中で医療と介護を複合化し、対応できる体制づくりが必要であるとの観点から、2014年4月に新設されました。急性期を経過した患者(ポストアキュート)、在宅介護施設からの患者であって症状が急性増悪した患者(サブアキュート)に対しても十分な治療を継続して提供することができる地域に密着した病棟です。地域包括システムを支える病棟ともいえます。

2025

あけましておめでとうございます
今年もよろしく申し上げます



	回復期	地域包括ケア
主な役割	急性期治療後の患者さんの在宅復帰	急性期治療後または在宅療養中に悪化した患者さんの在宅復帰
対象患者	対象となる疾病「あり」 脳血管疾患、脊柱や大腿骨骨折など発症後早期の患者	対象となる疾病「なし」 集中治療はそこまで必要ないが入院治療が必要な患者 介護疲れによるレスパイト
入院上限日数	疾病により違う 脳血管疾患180日 骨折90日 など	最長 60日
施設基準維持に必要な実績	在宅復帰率 7割 以上 重症者割合 4割 以上 など	在宅復帰率 7.25割 以上 重症度割合 1割5分 以上 自宅からの緊急受け入れ 3月で9人以上 など
病棟の主な機能	・1日のすべてがリハビリにつながるような生活を提供 ・「発症以前の状態で回復」すること「早期の在宅復帰」を目指す ・多職種協働の医療を推進し、チームアプローチを実践	・急性期治療を経過した患者の受入れ(ポストアキュート) ・在宅で療養を行っている患者の受入れ(サブアキュート) ・在宅復帰支援(院内と地域をつなぐ機能)
職員配置 リハ時間平均	看護職員配置 13:1 以上 PT・OT・ST それぞれ数名ずつ	看護職員配置 10:1 以上 PT・OT・ST いずれか1名以上
平均リハ時間	1日2時間以上 休日対応多い 当院は365日対応	1日40分程度 休日対応少ない

※主な違いは対象患者・入院上限日数・リハ時間などです。上記は一般的な基準等をまとめたものであり、病院によって変わることがあります。

今月の利用者さん

今月は2名の利用者さん、どちらもパーキンソン病という難病を患いながらも、いきいきとした生活をされている方をご紹介します。

Aさん 男性 70歳代 / パーキンソン病(60代発症)

訪問頻度：週2回リハビリ（火・金：40分/回）



自営業のAさん、20年前の仕事で事故に逢い腰椎圧迫骨折で腰が曲がった状態となり、10年前にはパーキンソン病が判明しました。車の運転はできるが手の震えや歩きにくさがあり、転ぶこともあります。一時期は幻視（実際に存在しない物が見える）の症状が強く、血管の中に虫がいるように見えるため自ら皮膚を掻きむしって虫を出そうとしたり、ご飯粒が虫に見えるので食べれないこともありました。しかし、Aさんは

パーキンソン病を「進行していく病気やけど、できることはいっぱいある」と解釈しています。今年1月、友人と共に建てていたログハウスが完成、その裏手にはピザ窯とサウナまであります。家族や友人と旅行に行かれたりと、病気であることを忘れる、周りにも感じさせないくらい活動的に生活されています。

Nさん 女性 60歳代 / パーキンソン病(40代発症)

訪問頻度：週2回リハビリ（月・木：40分/回）

1年前、交通事故により入院加療されていたNさん、退院後より訪問リハを開始しました。40代で判明したパーキンソン病、発症当時は「どうして自分が…」と思い悩み、鬱症状と闘ったそうです。Nさんの症状は、薬が効いている時間（ON）と聞いていない時間（OFF）がはっきりしていることが特徴。ONの時は階段もスタスタ上がれるけど、OFFの時は立っておくのに介助が必要になります。ご主人・娘さんの支援もあり徐々に病氣と向き合う生活へと切り替えることができ、令和4年1月、念願であったカフェを自宅オープンしました。現在でも約2時間毎に薬が切れONとOFFを繰り返す生活ですが、定期的にイベントを

開いたり地域のお祭りに出店したりと、活動的に過ごしています。病氣の自分でもカフェの営業を通じて、誰かを幸せにできていると感じているそうです。



訪問看護師さんの体験記

『終活カンファレンス』 訪問看護師 長尾くるみ
医療や介護分野における『カンファレンス』とは、主に関係者間の情報提供や共通認識構築の場です。今回は、本人の望む「終活」を実現するためにそれぞれができることを考える、という目的のもと行ったカンファレンスについてお話しします。

がんで化学療法治療に通われていた利用者Bさん、訪問時に「したいことはなんですか？」と尋ねると「終活」と返事がありました。Bさんは一人暮らしで、「自分が最期を迎えたときにできるだけ他の方に迷惑をかけたくない、自分で準備がしたい」とおっしゃいました。身体のきつさが強いので、入院して体調を整えてみては？と提案しましたが、入院するとしたいこと（終活）ができないからと自宅での生活を希望されました。そこで、関係者間での終活カンファレンスを開催しました。



【希望する終活の内容】

- ①自宅の片付け
- ②死後の自宅の処理
- ③仏壇の整理

【参加メンバー】

Bさん
担当ケアマネさん
済生会病院退院支援職員4名
まほろば訪問看護師2名

【カンファ後の対応】

- ①・②：ヘルパーさんと一緒に荷物を仕分け。片付け業者の選定
- ③：仏壇を処分または小さくするなど検討

【結果】カンファレンス後より終活がすすみ、生前にできる準備は完了したとBさんは話されています。終活をテーマにカンファレンスを行うことで不安が軽減され余生を過ごすことに前向きになれています。

済生会 安心と笑顔をお届けす
まほろば訪問看護ステーション

開所日 24時間オンコール対応
月～土（祝祭日除く）

訪問時間 9:00～17:00

内容 訪問看護 訪問リハビリテーション
☎0973-28-5701(直通)

社会福祉法人 済生会支部
大分県済生会
日田病院

大分県日田市大字三和643-7
TEL.0973-24-1100 (病室代表)

診察受付時間
平日：午前8時10分～午前11時30分
※診療科により異なる場合があります

休診日
土曜日、日曜日、祝日、休日
(年末年始-12月29日～1月3日休診)

Follow me !



Instagram

社会福祉法人 済生会支部
大分県済生会日田病院
0973-24-1100